

◆実践問題28◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

昔相如と言ふ人ありけり。世にたぐひなきほど

に貧しくてわりなかりけれど、よろづのことを知

り、才学並びなうして、琴をぞめでたく弾きける。

卓王孫と言ふ人のもとに行きて、月の明かき夜、

夜もすがら琴を調べてゐたるに、この家あるじの

娘に卓文君と聞こゆる人、あはれにしみじくおぼ

えて、この男にあひにけり。女方の父、よろづのた

からに飽き満ちて、世のわびしきことを知らざり

けり。かかれども、このわび人にあひ具したるこ

とを、いと心づきなさまに思ひとりて、いかに

も娘のゆくへを知らざりけれど、つゆちり苦しと

思はでなむ、年月を過ぐしける。この夫、蜀といふ

国へ行きける道に昇仙橋といふ橋ありけり。それ

を歩み渡るとて、橋柱に物を書きつけけり。我、大

車肥馬に乗らずば、またこの橋を帰り渡らじと誓

ひて、蜀の国にこもりにけり。そのち思ひのご

とくめでたくなりてなむ、橋を帰り渡りたりける。

女、年ごろ貧しくてあひ具したるかひありて、親

しきうとき、世の中の人々にも、たぐひなくうら

やまれける。